

「あ〜」と悲鳴ともとれる歓声が一斉にあがる。「やっぱりやっちゃったよ!」とこの展開を予想していたかのよう磯ノ海親方が言う「おめでと〜!と言ったらいいか、か、どう言葉をおけた方がいいんだろか?」と鹿賀乃戸親方が錦風親方の複雑な心境を思いやる。「佐賀の優勝は嬉しいには嬉しいけど、今場所の若ノ嶋はいい相撲を取っていただけに優勝させてやりたかった!」と錦風親方が心情を語った。

佐賀ノ海は部屋の先輩横綱の若ノ嶋を破ったの先々場所が続く2回目の優勝。「錦風さん!これで佐賀ノ海は来場所は綱獲りの場所だよ!」と朝日松理事長。「いや、綱は辞退しますよ!」と返答する錦風親方。「推挙されても佐賀ノ海は横綱にしないってこと?愛情がないねエ!」と朝日松理事長。

「いや、そうじゃなくて、愛情があるからこそ辞退って言っているんだよ。佐賀は相撲つぶりから言って横綱になったとしても短命に終わる可能性が高いから、大関の地位で少しでも長く相撲を取ってもらいたいと思っっているんだよ!」と錦風親方。しかし、もし佐賀ノ海が連続優勝するようなことがあれば、当然、横綱推挙の話が持ち上がることになる。果たしてどうなることになるのやら。

幕内の下位では新入幕の龍不動、若柱、太刀鳳の3人がともに勝ち越し、若柱と太刀鳳は8勝3敗と好成績を上げた。地方部屋の星の播磨屋部屋の龍不動も連勝して何とか勝ち越しを決めた。この勝ち越しには播磨屋親方もさぞかし喜んでのことだろう。一方で香具山部屋の夢力、桐壺部屋の虎風、虎剛力、富士ノ花の3力士が引退・廃業を表明した。

今場所は上位が強かったことから、4人の関脇小結の内、3人が陥落見込み。入れ替わりに入幕4場所目の新鋭若巨の新三役昇進が有力。「嬉しいですね!来場所の上位との対戦が楽しみです!」と千秋楽に北海道から駆けつけた霧ヶ浜親方が抱負を語った。



富士花●(寄り切り)○龍不動

来場所は春ノ翔が新横綱として土俵に上がる。今場所、途中休場した美空富士が出場見込みで、桐壺部屋として2人の横綱が番付に名を連ねることになる。番付に同部屋の2人の横綱が載るのは85回の輝勢岩部屋扇灘岩湊以来のこと。

今場所、惜しくも優勝を逸した若ノ嶋、今場所優勝の佐賀ノ海、カド番でリベンジを期す魁電の横綱大関勢を中心に、関脇千代鈴以下の力士がどういった相撲をみせるか、第153回本場所は新年の令和3年1月に幕を開ける予定だ。(錦風)

鹿富士、二度目の十両優勝

終盤の混戦を制した鹿富士が9勝2敗で自身2度目となる十両優勝を飾った。九日目を終えて春雷、喜乃郷、雪若丸を含めた4人が並走。十日目鹿富士は同じ2敗の雪若丸戦に負けた方が優勝争いから一歩後退となるだけ両者に負けられない一番。

立ち合い低い体勢から攻める雪若丸をガツガツ受け止めた鹿富士が懐の深さを生かし引き落とし2敗を死守。初顔の対戦だったが、関取経験でははるかに上回る鹿富士がまだ十両2場所目の雪若丸に意地を見せた相撲となった。その後土俵に上がった同じ2敗の喜乃郷と春雷がともに敗れたため十日目を終わって鹿富士が単独トップに立った。

そして千秋楽、すんなり勝つ鹿富士の優勝が決まるのか、決定戦も予想される中、先戦に組み込まれた雪若丸が勝って3敗を確保。そして勝てば優勝となる鹿富士の相手は初戸。今場所の内容からすれば鹿富士だが、



鹿富士○(寄り切り)●初戸



雪若丸●(寄り切り)○鹿富士

初戸も上手からの一撃もあるので油断はならない。しかし、その心配もなんのその、左を深く差す万全の体勢から正面土俵に寄り切って勝負を決めた。先場所は三枚目まで7勝を上げながら昇進ならず。先場所は三枚目越せば入幕という東軍頭で負け越しとチャンスを生かせずじまい。しかしながら、この優勝で4場所振りとなる幕内復帰を決めた。

すでに勝ち越しして幕内昇進を決めている春雷は連敗となって7勝止まり。2場所連続の優勝とはいかなかったが、来場所は部屋所縁の四股名「鉄甲」に改名も決まり心機一転で臨みたい。十両5場所目の喜乃郷は8勝の星を上げ昇進が決定的。

他で幕内昇進を果たしそうなのは、鬼ヶ嶽若佑あたりが有力。喜乃郷と若佑は序盤連敗スタートから中盤以降白星を重ねて7勝を上げた。若佑は若巨、若柱に次ぐ3人目の幕内力士、来場所も更なる活躍に期待だ。

再十両の西勢ノ里は五日目までで1勝4敗と黒星が先行して春日根親方を心配させたがその後白星を並べ返して十日目に勝ち越しを決めた。連敗中は廻しがよくないんじゃないの、とか親方衆に言われていたが、日を追うごとに段々と馴染んできたのか力強い相撲に変わってきた感じだ。

新十両では柏陵山と若雲山が勝ち越し。夢香山と宇治家は5勝6敗で惜しくも負け越しとなったものの、ともに残留を決め来場所に巻き返しを図る。磯日ノ丸が一人で黒星を背負い込む形となり唯一陥落となった。(勝間田)

幕下は暫が2回目の優勝

幕下はここまでとも4連勝同士の対戦。暫が寄り切りで勝つ川を破って初優勝を飾った。優勝をかけた一番は先に左を差した暫が腰を落として万全の体勢となつて勝つ川を退けた。暫は優勝とともに十両昇進も確実にし、



勝ノ川●(寄り切り)○暫

先場所筆頭でまさかの負け越しとなった悔しさを見事に晴らした。

敗れた勝ノ川も初土俵にしては十分過ぎる結果で来場所は真価が問われそうな場所になるだろう。暫の他では剣将、冬牡丹、西神門、西渡海の十両昇進が濃厚。冬牡丹以外はすべて新十両となり大挙して実力を備えた若手が上がって来ることになりそう。

暫とともにこちらも活躍が期待されそうなのが西神門と西渡海の2人。初土俵の場所からいづれは上がって来るだろうと言われていた。来場所の3人の土俵に注目だ。西三枚目で勝れば昇進となる黒田だったが、剣將に寄り切られて花形とともに2勝3敗と勝ち越しはならず。来場所に雪辱を期すこととなった。(勝間田)

三段目、序の口

三段目は西旭と亀風が全勝対決。ともに西田道場で鎗を削った間柄。亀風いきの声援の中、上手い相撲で西旭が亀風を下し、幕下昇進を確実なものにした。

序二段はただ一人全勝の虎麒麟が1敗の鹿電馬を圧倒し、すんなり優勝を決めた。なお、毎度序二段では情けない結果でかろうじて序二段に残留した錦風勢は来場所は縁起を担いで、警弱、逆勃と改名するとか。

序の口は全勝の龍神丸が敗れたため、1敗6人での決定戦となった。決定戦の決勝は逆馬山と隠岐ノ花。松ヶ神部屋からなんととして優勝力すらをとの逆馬山の願いも虚しく逆馬部屋が下手投げで松ヶ神(鹿賀乃戸)



隠岐花●(下手投げ)○逆馬山



虎麒麟○(寄り切り)●鹿電馬



亀風●(寄り切り)○西旭